

第28回

難病・遺伝医学 セミナー

講演：脊髄性筋萎縮症の疾患修飾治療と早期治療の重要性

2021年

5月12日 水 18:30-19:30

順天堂大学10号館1階105カンファレンスルーム

講師紹介：齋藤 加代子先生

(東京女子医科大学遺伝子医療センターゲノム診療科 教授)

座長：岡崎康司(難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター)

司会：新井正美(難病の診断と治療研究センター・ゲノム診療センター)

概要：脊髄性筋萎縮症（SMA）は脊髄前角細胞の変性・消失による筋萎縮と進行性筋力低下を特徴とする下位運動ニューロン病である。SMAは、その重篤さと呼吸筋障害による致命的経過ゆえに、長く根本治療が望まれてきた。2017年より核酸医薬品、2020年より遺伝子治療薬と、疾患修飾治療薬による先進的治療の診療実装がなされるようになった。早期診断・早期治療、さらに新生児スクリーニングにての未発症における治療により、SMAの発症抑制が可能な時代となりつつある。30年に近いSMA患者・家族との付き合いを振り返りつつ早期治療の有効性と重要性を紹介する。

申込方法：以下の申込フォーム・QRコードよりお申込みください。

※開催日までに詳細と招待URLのご案内メールをお送り致します。

<https://forms.gle/HuWxVZcYRq4x99PcA>

LIVE配信（Zoom）にて開催

5月11日（火）17時締切

※当日は、順天堂大学10号館1階105カンファレンスルームで講演致します。聴講もできますのでお時間がありましたら会場でのご参加もお持ちしております。



お問い合わせ

難病の診断と治療研究センター/ゲノム診療センター

新井/原田（内線71407/5167）

共催：順天堂大学大学院医学研究科

順天堂大学大学院HP QRコード

